

授業特別協力者(ゲストスピーカー)報告書

テーマ : 西安回族(イスラム教徒)集住地域における漢族との多文化共生形態について
授業特別協力者名 : 王 勇 氏
実施日時 : 2021年10月8日(金) 5時限
担当教員名 : 山本 明
授業科目名 : 国際教養演習
履修者数 : 13名

実施結果

事前学習

歴史的な多文化共生の典型を学習するため、西安の伝統的回族集住地域を訪れ、解説をしていただくこととした。事前学習としては、イスラム教徒集住地区における宗教指導者イマームの生活と、回族がメッカ巡礼へ出発までを描いたドキュメンタリーを教材とし、解放後、文化大革命などの弾圧を経ながらも、回族がどのように信仰を継承してきたのか、そして現状の信仰生活がどのようなものであるかを理解した。

更に、学生に各自の関心領域や将来の職業選択も視野に入れた上で、旅行会社の部長としての王勇氏に対する質問を作成させた。中国社会、経済を問わず多様な質問が出そろった段階で、各自が質問のコンセプトをプレゼンし、全員でそれを共有することとした。

当日の授業実践報告

まずは一時間にわたり回族の集住地区であり、商店街となっている地域を歩きながら解説を受けた。

その後30分程度、王勇氏が学生の質問に答える機会を設けた。質問は一週間前に王勇氏に届けてあったため、詳細な数値データや具体的ケースなどが披露された。

主たる質問と回答は以下の通りである。

メッカ巡礼の際、家族が涙を流しながら見送るシーンの意味や、ラマダン時の営業形態に関する質問に対しては、回族の友人への取材をしたうえで、詳細な回答がなされた。結果、文字資料やメディア報道では実感できない、信仰の持つ意味を理解できた。また街歩きの中でイスラム教徒の服装や食文化等、風俗習慣を目の当たりにすることで、可視化された信仰空間を体感することができ、文化の違いを理解することができたとのコメントが見られた。

コロナ禍での旅行業界の対応に関する質問に対しては、政府の施策の説明のみならず、自身が当初からどのようにオンラインツアーの商品開発をしていったかの説明を受けることで、「上に政策あれば下に対策あり」というボトムアップ型の中国的発想を実感することができた。

また平安保険に関する質問に対しては、その問題点も含めての回答があった。日本では成熟した保険業態を打破し、医療、健康のワンストップ型オンラインプラットフォームが喧伝されるが、そのメディアバイアスに気づく契機となった。また「反食品浪費法」や不動産に関する政府の対応についても、一般的報道内容にとどまらず、現地の人々がどのようにそれを捉え、行動しているかについて具体的、かつ新鮮な説明があり、驚きを通じてインフォーマントによる情報収集の重要性が認識された。

事後学習

全員が王勇部長やツアーへのフィードバックを執筆し、それを共有することを通じ、自身の気

づきを意識化した。更に、事前に有していた仮説からその気づき・発見を通じ、新たな仮説を構築するための方策を指導した。

更に、王勇部長の回答に補足資料を提示することで、日本語、中国語の先行研究や資料の収集の仕方、さらなる課題発見や仮説構築の方策を具体的に提示した。